

達成度調査及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題				
※達成率・・・目標値（おおむね満足と判断するための各教科・観点ごとの得点）を上回った児童の割合。				
	教科	第4学年	第5学年	第6学年
結果の分析	国語	○話す・聞く力の達成率が全体的に高く、90%以上の児童が目標値を超えている。 ▲ローマ字の表記の達成率が特に低く、多くの児童が定着していない。	○話す・聞く力の達成率が全体的に高く、80%以上の児童が目標値を超えている。 ▲文学的文章の内容・主題の理解および登場人物の心情理解に課題がある。	○各観点とも達成率が全体的に高く、基礎的な内容、発展的な内容という項目で見ても、95%を超えている。 ▲話の内容を最後まで、かつ細部まで正確に聴く力に課題がある。
	社会	○知識・理解については達成度が90%を超えており、全体的によく理解できている。 ▲観察・資料の読み取りに課題が見られる。また、既習内容を生かして問題を解く力に課題がある。	○基礎的な内容、発展的な内容とも達成率は80%を超えており、身に付けた知識を結び付けて考える力がある。 ▲公民的な内容が弱い。また、県名と日本地図上での位置、公共施設の働きについて課題がある。	○観察・資料活用の技能の達成率が最も高く、資料を正確に読み取る力がついてきていることがわかる。 ▲応用の項目の達成率が低く、身に付けた知識を結び付けて考える力に課題がある。
	算数	○数学的な考え方の達成率が最も高く、文章題も比較的よくできている。 ▲乗法の性質や重さの単位変換、円の半径、球の直径などについての知識・理解が定着していない。	○数学的な考え方の達成率が最も高く、長方形の面積から辺の長さを求める問題は100%の正答率である。 ▲式の読み取りや文章題、および小数のかけ算・わり算、図形の作図について一部の児童に課題がある。	○各観点とも達成率が全体的に高く、特に発展的な内容の項目が昨年度と比べて38ポイント伸びた。 ▲単体量当たりの大きさの単元が極端に弱く、図形領域の定着度が二極化している。
	理科	○知識・理解面および観察・実験の技能についてはどちらも80%に近い達成率である。 ▲科学的な思考・表現の領域が弱い。磁石の性質、光をたくさん集めるための工夫などに課題が見られる。	○知識・理解面および観察・実験の技能についてはどちらも80%以上の達成率である。 ▲実験操作上の注意に関する内容が理解されていない。安全面からも再度指導し、徹底させる。	○各観点とも達成率が全体的に高く、特に動物の誕生についてよく理解できている。 ▲科学的な思考・表現の領域において、定着できていない一部の児童への個別指導が必要である。
調査以外の癖癖との課題	教科	第1学年	第2学年	第3学年
	国語	○話の内容を正しく聞き取る力があり、文章を読む力も高い。 ▲平仮名の長音・拗音・促音・撥音などの表記の定着に課題がある。	○書く力、読む力、言葉の特徴やきまり、文字の使い方について定着している。 ▲平仮名・片仮名の表記、話の内容の聞き取りについて課題がある。	○話の内容を聞き取る力が高く、登場人物の心情理解もよくできている。 ▲説明的文章の内容・要旨の理解において、一部の児童の達成率が低い。
調査以外の成果と課題	算数	○どの観点・領域ともバランスよく力がつき、よく理解できている。 ▲一部の児童は半具体物に置き換えないと、文章題からたし算かひき算かを判断できない。	○バランスよく力がついており、特に3口の計算や数の順序や大小についてよく理解できている。 ▲数学的な考え方について、共通単位に置き換えて比較する問題が一部の児童に定着していない。	○基礎的な内容についてはしっかり身に付けることができている。時間の単位についての定着度が特に高い。 ▲長さの単位やかさの読み取りについての理解に課題がある。長方形の作図の定着度が低い。
	教科	○意欲的に学習活動に取り組み、友だちの表現や作品を認め、よさを見つけることができる児童が多い。 ○課題や授業の流れを明確にすることで、見通しをもって授業に臨み、楽しみながら表現できている。 ▲技能面での個人差が大きく発想や構想が生かされない児童がおり、苦手意識をもつ活動への意欲が下		

	<p>がりがちである。</p> <p>▲運動に積極的に取り組む児童とそうでない児童とが二極化の傾向にあり、個人差が大きい。</p>
<p>昨年度の「指導改善プラン」に基づく取組の成果と課題</p>	<p>○算数科における習熟度別少人数指導が定着し、児童が自分の力に合ったコース選びをするようになった。また、「①自力解決→②考え方を出し合う→③「はやく・かんたんに・せいかくに」を合言葉に、合理的な考え方をを見つける」流れで授業を展開したことで、数学的な考え方が伸びてきた。</p> <p>▲各学年・各教科とも、達成度調査の分析の結果、一部の児童に課題があることがわかった。学習内容を十分に理解できていない児童への個別指導を工夫し、学力の底上げを図る必要がある。</p>
<p>改善の方針</p>	<p>①習熟度別少人数指導、T・Tの指導方法、指導形態をより一層工夫し、児童それぞれの学習状況、個人差に応じた指導を行うとともに、家庭学習の内容を充実させて基礎・基本が確実に身に付くようにする。</p> <p>②校内研究の成果を活かし、自分の感想や意見をもって読んだり、教材文の内容と関連した本を目的に応じて読む活動（並行読書）をとり入れたりすることにより、主体的に文章や資料を読む力を育てる。</p> <p>③問題解決的な学習や体験的な活動を充実させ、実感を伴う理解を促すとともに、身に付けた知識・技能を活用したり自分の経験をもとに推論したりして問題を解決する力の向上を図る。</p>
<p>学校としての改善の取組</p>	<p><b>【国語】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究に関連して、国語科では単元を貫く言語活動を設定するとともに、教材文の学習と並行して自分で選んだ本を読む（並行読書）活動を取り入れ、児童が終末の活動に向けて主体的に学習することができるような活動を展開する。</li> <li>教材文を丁寧に学習し、登場人物や作者、著者の気持ちなどを読み取る力を高めるとともに、様々なジャンルの本を読むことにより興味や知識を広げ、自分の思いを表現するために用いる言葉の数を増やし、友達の話聞く活動などを意図的に計画する。</li> <li>言葉のはたらきや特徴について基本的な力を身に付けることができるよう、ローマ字や漢字については反復練習を行ったり、意味の分からない言葉は必ず辞書で調べたりする習慣をつける。学年によってはマイ国語辞典・マイ漢和辞典を活用し、語彙を増やすことができるようにする。</li> </ul> <p><b>【社会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料の中から必要な情報を正しく読み取り、自分の生活と関連付けて考えることができるようにするとともに、基本的な学習事項については繰り返し確認し、確実に身に付けられるようにする。</li> <li>児童自らが課題を設定して調べ学習を進め、レポートや新聞などに自分の言葉でまとめる活動を取り入れたり、日々の授業の中で必ず根拠を問うことを心がけたりすることで、身に付けた知識を結び付けて考える力を育てる。</li> </ul> <p><b>【算数】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が既習事項を活用して問題解決に取り組む時間を確保するとともに、自分の考えを表現したり説明したりできる場を設定し、互いの考えを交流しながら合理的な方法を見出し、数学的な考え方をさらに伸ばすことができるようにする。</li> <li>児童の学習状況を的確に把握することにより、習熟度別少人数指導を一層充実させるとともに、個別指導の方法・時間を工夫し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、また発展的な内容にチャレンジすることが可能な授業展開にする。</li> <li>児童各々の定着していない学習内容を把握し、個別指導の時間を確保する。</li> </ul> <p><b>【理科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験方法を自分なりに考えてその理由を説明したり、結果と考察のまとめ方、また単元で学んだ重点を自分の言葉でノートに書くようにしたりするなど、言語活動を通して科学的な思考・表現や知識理</li> </ul>

	<p>解の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物質とエネルギー領域の学習では、出来る限り実験を行い実感を伴った理解を促すとともに、学んだことをノートに絵や図でまとめることができるようにする。また、実験を行う上での器具の扱いや注意点などについても丁寧に押さえて定着を促す。</li> </ul> <p><b>【体育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な動きの習得を図るため、体幹を鍛える運動や折り返しの運動を継続して行うとともに、運動の楽しさを味わうことができるような授業展開を工夫する。</li> </ul>
<p>教員の 改善の 取組</p>	<p><b>【全教科を通して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科に限らず、1時間の授業の中に教科の特性や児童の実態に応じた形態で、互いの意見や考えを交流する場面を作る。</li> <li>1時間の学習のねらいを明確にして授業を展開するとともに、(高学年においては昌平ノートを活用した) ノート指導に力を入れ、学習の成果を児童がノートを見て確認することができるようにする。</li> <li>掲示物等の学習環境を整え、児童が学習したことを活用し、比較・関連付けて考えることができるように支援する。</li> <li>年間指導計画や評価計画、および習熟度別少人数指導やT・T等の指導体制を再度見直すとともに、講師や支援員、SLSとの連携を一層密にして、個に応じた指導をきめ細かく行うようにする。</li> </ul>
<p>検証方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元末、学期末ごとにテストを行い一人一人の達成状況を把握するとともに、定着度によっては反復練習等を行い、習熟を図る。</li> <li>授業の最後には学習感想を書く時間を確保し、ノートやワークシートの記述内容の分析と学習状況の確認を行う。</li> <li>毎月の児童アンケートや保護者による外部評価アンケートなども参考に、児童の学習についての意識を把握する。</li> </ul>